

塚田建次郎氏年譜（陸地測量部時代を中心に、敬称略）

大正9（1920）年

1月10日、茨城県下館市に生まれる。

昭和7（1932）年

秋、王子小学校高等科転入。

昭和9（1934）年

春、陸地測量部技術見習いの試験に合格（25期生）。
・同期に乾賢二（のち国土地理院地図編集課長）、富澤章（のち国土地理院製版課長）、金澤敬（のち建設大学校地図科長）など。

昭和10（1935）年

3月、見習い期間をおわる。

4月、陸地測量部製図科工手として、金澤敬とともに「曲線屋」となる。

昭和11（1936）年

4月、上野中学（夜間）3年甲組（画家、葦名芳夫が担任）に編入。下川正司と同級。

昭和12（1937）年

4月、製図科の第2班から第5班に移動し、中国・ロシアの地図の製図作業にあたる。

昭和14（1939）年

上野中学を卒業。

昭和16（1941）年

中央大学商学部（夜学）に入学。

・陸地測量部の機構改革：三角科 第1課、地形科 第2課、製図科 第3課（製図・写真製版・印刷）

7月25日ころ召集令状来る。水戸の工兵隊に。

昭和19（1944）年

4月、陸地測量部修技所、51期生となる（杉並区の明治大学）。

昭和20（1945）年

2月、修技所を修了。陸軍技手として第3課第2班に配属。太平洋沿岸の修正図の作製に従事（マルチ作業）。

4月、陸地測量部疎開のため、長野県波田村で準備。
・第3課第2班は長野県梓村の梓国民学校で、下川正司とともに勤務。作戦図の製図にあたる。
・富澤章は、第3課第1班に属し波田国民学校で製図・写真製版関係の仕事に従事。本土決戦用の太平洋沿岸の地図作製をおこなう。

波田国民学校（現東筑摩郡波田町）：

総務課・第3課の製版と印刷

梓国民学校（現南安曇郡梓川村）：

第3課製図関係

塩尻国民学校（現塩尻市）：

第1課と第2課

温明国民学校（現南安曇郡三郷村）：

教育部（元修技所）

安曇国民学校（現南安曇郡安曇村島々）：

大量の荷物

岐阜県高山の大井家

8月15日、凸版印刷の板橋工場に出張中終戦を知る。

- ・地図の焼却に従事。
- ・富澤章は波田国民学校で、東南アジアで押収した地図の複製、満州・中国関係の外邦図の焼却に従事。
- ・下川正司は梓国民学校で蒙古5万分の1図の原図、田辺茂喜は本土決戦洋のマルタの地図、乱数表、将校名簿、文官名簿などを焼却。
- ・焼却を終わってまもなく中止の命令がきた。
安曇国民学校に地図の原版である銅板があったが、日本側に確保。

8月31日、陸地測量部の解体

9月1日、地理調査所(岩沢忠恭所長、12月より武藤勝彦所長)が発足し、事務取扱を囑託される。

- ・出勤しても仕事がない状態がつづく。
米軍来訪 9月25日、10月12日、11月1日より1ヵ月、12月1日から20日。
安曇国民学校には、9月25日、米軍視察。10月19日、米軍視察団。11月13日、米人来校。12月5日、米進駐軍来校。
12月地理調査所の官制・分課規程が制定される。
囑託から技手に(27日)。

昭和21(1946)年
標石調査に従事。

4月、地理調査所は、千葉県稲毛の陸軍戦車学校跡地に移転。

5月、日本測地基準点標石調査作業の開始。秋田・青森に出張、その後夏は北海道へ。12月以降は九州。

昭和22(1947)年

4月、製図班にもどる。地形図の「応急修正作業」に従事。

昭和24(1949)年

8月、地理調査所を辞職し、出版関係の仕事に従事。

昭和33(1958)年

3月、地図製図業を創業。

文献

- 東京地図研究社40年史編集委員会編(2002)『東京地図研究社40年史』株式会社東京地図研究社
- 塚田建次郎・富澤章・田辺茂喜・西原重男・下川正司・神山信夫(1996)「続占領下の空白『地理調査所』物語6～10、座談会波田時代のこと」信濃毎日新聞、1月5日～23日。
- 測量・地図百年史編集委員会(1970)『測量・地図百年史』日本測量協会。